



令和3年度 決算概要

令和3年度の決算状況についてお知らせします。

1 総括事項

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、新たな指針が国から示されなかったため、新公立高畠病院改革プランの計画期間を1年延長した年度でありました。令和4年3月に新たな指針「公立病院経営強化ガイドライン」が示されたことから、公立高畠病院経営強化プランの策定作業は、令和4年度に実施することいたしました。そのため新公立高畠病院改革プランの計画期間につきましては、更に1年延長し、令和4年度の数値目標は令和3年度と同数値といたしました。

新型コロナウイルス感染症の対応には昨年度同様に大変苦慮いたしました。限られた職員体制と診療体制の中で適切に対応を行うとともに、プランに掲げた数値目標の達成に向け最善を尽くし、地域の方々に質の良い医療を提供するよう努めてまいりました。

営業成績につきましては、入院患者の減少により入院収益が減少いたしました。また、外来患者の増加及び新型コロナウイルスワクチン接種に係る収入の増加により、経常収支は8年連続の黒字決算となりました。

2 収支の状況（消費税除き）

総収益では外来収益、その他の増により対前年比150,540千円の増となり、経常収益は対前年比207,920千円の増となりました。

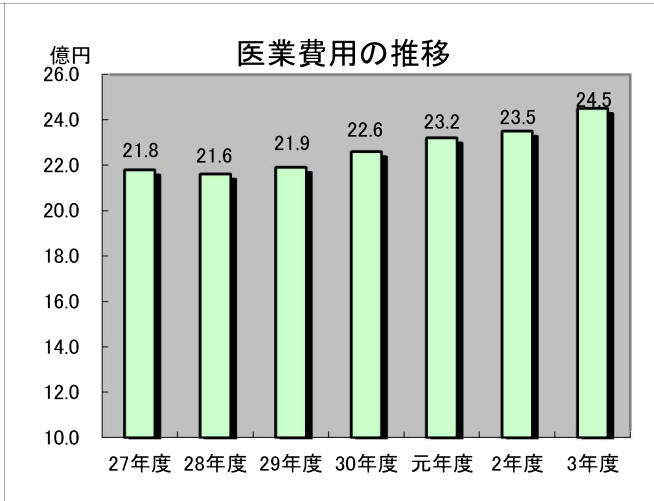
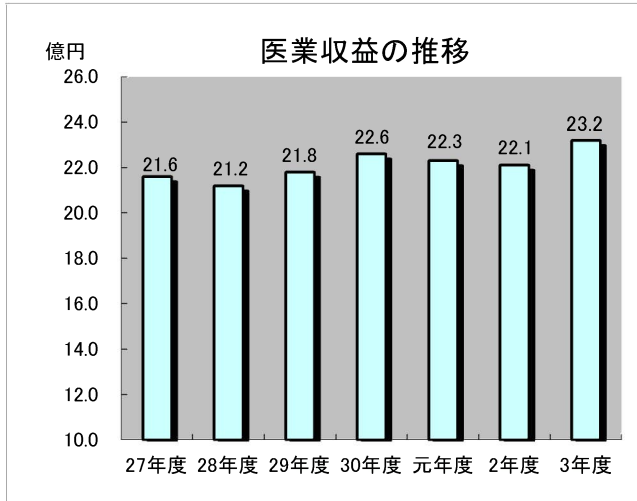
一方費用では、総費用で対前年比29,774千円の増となりました。

総収支では前年度より120,766千円増加し、131,273千円の純利益を計上することとなりました。また、経常収支では対前年比117,621千円増加し、140,687千円の経常利益を計上することとなりました。

(単位:千円)

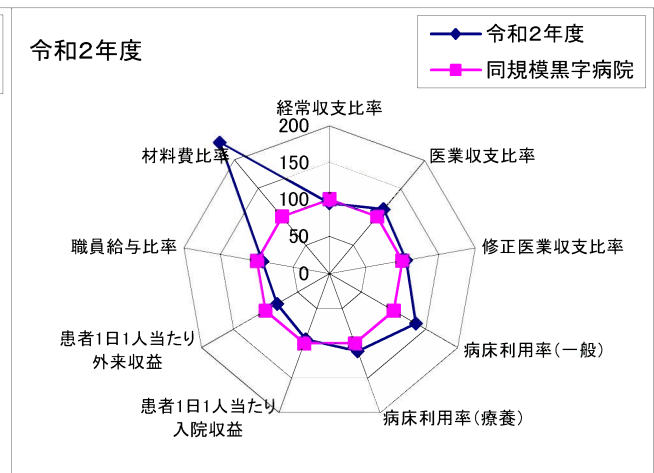
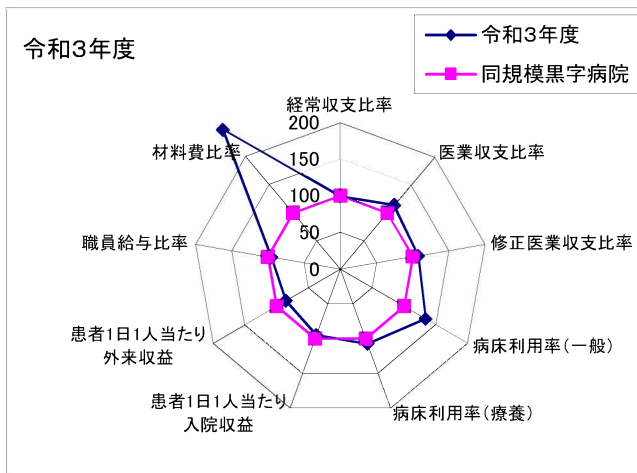
項 目		3年度	2年度	前年比
医 業 収 益	入 院 収 益	1,354,251	1,369,336	98.9%
	外 来 収 益	593,324	564,156	105.2%
	そ の 他	377,414	279,241	135.2%
医 業 外 収 益	負 担 金	133,260	135,479	98.4%
	そ の 他	230,959	133,076	173.6%
特 別 利 益	特 別 利 益	1,856	59,236	3.1%
総 収 益		2,691,064	2,540,524	105.9%
医 業 費 用	給 与 費	1,607,944	1,572,297	102.3%
	材 料 費	156,972	161,846	97.0%
	経 費	518,064	458,163	113.1%
	減 価 償 却 費	164,109	152,509	107.6%
	資 産 減 耗 費	960	881	109.0%
	研 究 研 修 費	4,017	2,500	160.7%
医 業 外 費 用	医 業 外 費 用	96,455	110,026	87.7%
特 別 損 失	特 別 損 失	11,270	71,795	15.7%
総 費 用		2,559,791	2,530,017	101.2%
総 収 支		131,273	10,507	1249.4%





3 経営指標等

主要指標の同規模黒字病院との比較



※同規模黒字病院経営指標(令和2年度実績)の平均値を100とした場合の当院の令和2年度・令和3年度それぞれの実績との経営指標数値の割合を示したものである。

※当院及び黒字病院の経営指標数値が類似黒字病院の平均値を上回っている場合(職員給与比率及び材料費比率については下回っている場合)に類似病院の線の外側に表示される。

(単位: %、円)

項目	令和3年度	令和2年度	増減	改善方向	類似黒字病院
経常収支比率	105.5	100.9	4.6	↑	106.6
医業収支比率	94.8	94.2	0.6	↑	83.0
修正医業収支比率	84.5	82.5	2.0	↑	78.7
病床利用率(一般)	91.7	92.1	△ 0.4	↓	68.4
病床利用率(療養)	83.9	87.1	△ 3.2	↓	78.2
患者1日1人当たり入院収益	31,967	31,883	84	↑	33,736
患者1日1人当たり外来収益	8,529	8,162	367	↑	9,965
職員給与比率	69.2	71.1	△ 1.9	↑	65.7
材料費比率	6.8	7.3	△ 0.5	↑	16.9

※改善方向については令和2年度と比較して↑が改善、↓が悪化したことを示している。

【収支構造】

○経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$

病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するためには、適正な負担区分を前提として、この比率が100%以上あることが望ましい。

○医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$

医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標。経常収支比率と同様、この比率が100%以上あることが望ましい。

○修正医業収支比率 (経常収益－他会計負担金)÷経常費用×100

経常費用が経常収益から他会計負担金を引いた実質収益によってどの程度賄われているかを示す指標。この比率が100%以上あることが望ましい。

【収入構造】

○病床利用率 年延入院患者数÷年延病床数×100

病院の施設が有効に活用されているかどうか判断する指標。病床利用率が恒常的に低い場合には、病床規模が適切か否か検討する必要があります。

○患者1人1日当たり入院収益 入院収益÷年延入院患者数

○患者1人1日当たり外来収益 外来収益÷年延外来患者数

病院の収入分析をするうえで最も基本的な指標。料金収入を増加させるためには、患者数という量的な要素と1人当たりの収入という質的な要素が重要となります。

【費用構造】

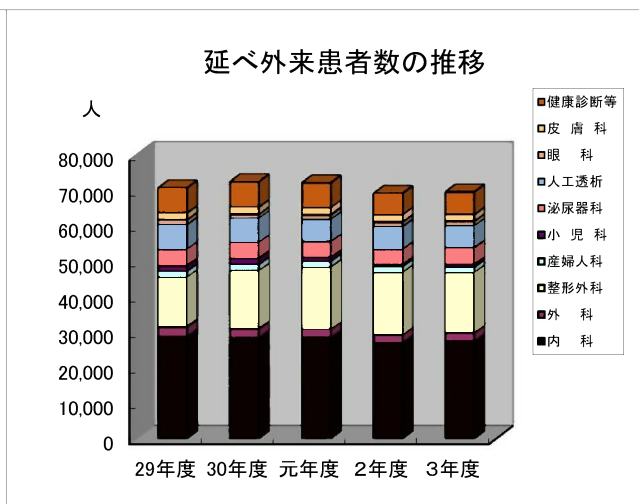
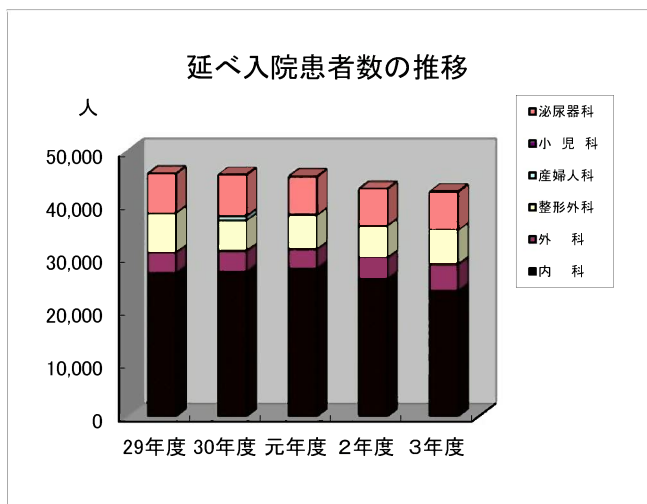
○職員給与比率(職員給与対医業収益比率) 職員給与費÷医業収益×100

病院の職員数等が適切か否かを判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントとなります。(職員給与費には退職手当負担金、児童手当を含まない。)

○材料費比率(材料費対医業収益比率) 材料費÷医業収益×100

病院において材料費は、職員給与費に次いで大きなウエイトをしめる医業費用。この比率が高い場合には、材料の購入価格(方法)を見直し、材料費の節減を図る必要があります。

4 患者数の推移



(入院)

区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
内科	27,073	27,320	27,962	25,987	23,725
外科	3,921	3,931	3,649	4,012	5,034
整形外科	7,323	5,726	6,337	5,934	6,520
産婦人科	69	841	153	37	2
小児科	16	49	23	10	0
泌尿器科	7,427	7,658	7,142	6,969	7,083
合計	45,829	45,525	45,266	42,949	42,364

※当日退院患者含む

(外来)

区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
内科	28,771	28,437	28,434	26,960	27,448
外科	2,729	2,524	2,422	2,359	2,408
整形外科	13,918	16,307	17,469	17,480	16,944
産婦人科	1,822	1,853	1,651	1,726	1,540
小児科	1,385	1,631	1,106	556	767
泌尿器科	4,710	4,567	4,409	4,257	4,612
人工透析	7,019	6,722	6,248	6,459	6,257
眼科	1,311	1,137	1,242	1,213	1,300
皮膚科	1,943	2,098	2,027	2,071	1,874
健康診断等	7,055	7,128	7,086	6,038	6,415
合計	70,663	72,404	72,094	69,119	69,565